

巡検・セミナー開催のご案内

令和2年度の巡検・セミナーについて現在計画を進めております。

■セミナー：地図制作の現場から

第1回セミナーは「地図制作の現場から」と題して、地図制作会社を訪問し、セミナーを開催する予定です。訪問先が企業のため、業務との兼ね合いから4月27日(月)前後の平日の開催となります。日程は、実施可能な企業および講師の選定などを調整しますので未定ですが、5月開催でしたら次号「ICICニュース」で、4月開催の場合、当財団ホームページでお知らせします。



また、過去巡検・セミナー参加者にはハガキでお知らせします。

■横浜・野毛巡検

第1回巡検は、「横浜・野毛巡検」としまして、横浜運河クルーズと横浜の下町、野毛・横浜橋界隈を歩きます。

「象の鼻」をスタートに、運河・横浜港を見学します。開催時期は気温等を考え、秋頃を予定しています。

■富士山一周バス巡検

日本の象徴、富士山を一周するバス巡検です。訪れる機会の少ない富士山北・西側を巡検します。富士河口湖町の青木ヶ原樹海、富岳風穴、富士宮市の白糸の滝、世界遺産センター、富士山本宮浅間大社。富士市の須津川渓谷や毘沙門天妙法寺などのルートを検討中です。

展覧会情報

路面電車と江東

期間 ~2月16日
会場 江東区中川船番所資料館(江東区)
電話 03-3636-9091

「広島町新開絵図」に見る浅野時代の広島城下

期間 ~2月24日
会場 広島市郷土資料館(広島市中区)
電話 082-253-6771

明治の地籍図を読みとく -むかしの道といまの道-

期間 2月15日~3月15日
会場 蒲郡市博物館(蒲郡市)
電話 0533-66-1881

四国・愛媛の災害史と文化財レスキュー

期間 2月15日~4月7日
会場 愛媛県歴史文化博物館(西予市)
電話 0894-62-6222

震災遺産を考える -それぞれの9年-

期間 ~4月12日
会場 福島県立博物館(会津若松市)
電話 0242-28-6000
※地図・地理に直接関係する展示ではありません。

町会所から市役所へ-古地図と古写真に見る横浜の歩み-

期間 ~4月19日
会場 横浜開港資料館(横浜市中区)
電話 045-201-2100

mini地図NEWS

▶地質図ライブラリー

つくば市にある産業技術総合研究所地質調査総合センター「地質図ライブラリー」は日本最大の地質に関する専門図書館。国内外の地質図や図書などが閲覧できます。インターネットで蔵書の検索も可能です。お問い合わせは、お電話029-861-3604やホームページ<https://www.gsj.jp/library/>で。隣接の「地質標本館」と合わせ、ぜひご利用下さい。

地図絡み

(一財)地図情報センター 監事 伊藤 等

*2017(平成29)年11月1日発行の『ICICニュース』
Vo.22No.3通巻83号の第68回まで続いた井口悦男先生

の「地図絡み」はしばらくお休みでしたが、この度先生再登場までの期限付き中継ぎとして拙文・駄文を書かせていただく事になりました。先生の地図・鉄道など幅広い御専門かつ興味深い内容には到底及びませんが、「ま、暇だから」程度でもご覧いただけましたら幸いです。どうぞ暫くの間お付き合いお願い申し上げます。

▶ 思い出を紡ぐ

小生だけか、歳をとった性か、定年退職して暇な時間ができたからか昔の事を考えるようになった。

以前、実家へ帰宅する際に乗車するバスの窓から見える景色にはそれほど頓着がなかった。いくつかの史跡と特徴的な建築物は存在するが特に目を引く何かがある訳ではないが、気がつくとき最近ではしきりに景色を追いかける様になっていた。

正式名称は知らないが“由比ヶ浜通り”は多分“下馬四つ角(写真1)から長谷観音の十字路(写真2)までか。バスに乗車し停留所は3か所、道路混雑もなく江ノ電の踏切を無事通過できれば4-5分程度で通過してしまう(徒歩でも15分程度)。

小学3年生の夏から結婚するまで、その道をバスや徒歩で利用していた。お世話になったお店、友人のお店等々思い出が詰まっている道である事に気がつくのに長い時間がかかってしまった。

小学生の時事情があり小生を預かっていただいた、お肉屋さん(今は建物だけ)には大変親切にいただいた事と、お肉屋さんが経営する裏のとても美味しいラーメン屋さんへ祖母と食べに行った思い出が残っている。小児科医をご紹介いただいたのもこのお肉屋さんである。

昭和30年代中頃、由比ヶ浜通りには馬車が走っていた。土曜日が縁日があり母と小さなサボテンを買求めた記憶がある。実家には今でもそのサボテンの子孫が庭に根を下ろしている。

▶ 地図で引き出す思い出

このような個人的な思い出を書き連ねていくと小学校から高校までの友人、お世話になったお店、買い物に訪れたお店など20軒以上の長々としたお話しをしなければならなくなる。興味深く連載私小説風にも書き連ねれば良いのかも知れないが、小生には残念ながらその様な文才はない。まして地図が絡まなくなってしまうそうである。お話を地図に引き戻す前に一言だけ。

意識して道周辺を眺めてみると、記憶がある遙か彼方の小学生頃の景観は半分以上残っていない。と言うか半分程度は残っているというか難しいところではあるが、お店は建て替えられたり別のお店になったり、チェーン店やマンションなどが建ったりと変化著しい場所もあり、点在する思い出探しに臆気な記憶を呼び戻すのに

苦勞する場所もある。思い出とは記憶に留めておくだけの方が良いのだろうか。

1枚の地図から思い出の地を眺めるのは如何だろうか。さすがに2万5千分1地形図では、正確ながら思い出探しの詳細な部分にまでは表現が及んでいないが、同じ紙地図ならば大縮尺の中心地表現がある「昭文社都市地図」(図1・由比ヶ浜通り)が便利である。机の上に紙地図を広げてじっと道を追いかけてみる。バス停、店舗名なども記載があるので位置関係やその場所の景観を思い出す事が可能である(願わくば思い出時代の地図が望ましいのだが)。この道を曲がって友人の家に遊びに行ったと蘇る。1枚の紙地図でも時間的変化を追う事ができ、記憶の中で小学生の頃はこの辺はこうなっていた。この道はまだできていなかったと時間を繋げていく事ができる。

また、Googleマップにより地図と上空からの写真による表現を利用できるので、記憶を映像からも呼び戻す事ができるのはありがたい。地図もビル名・店舗名など詳細に情報が浮かび上がってくる。画面が大きいと大縮尺のまま広範囲を眺められるので位置関係・方向性など理解しやすく記憶も正しく呼び戻せるような気がする。

小生は旧人類なのか固定された情報ではあるが、やはり紙地図を机の上に大きく広げて何だかんだと思い出探しをしている。同じ紙地図を何度も眺めていると不思議と記憶が蘇り時間の連続性となるのはありがたい。

1枚の紙地図。何度眺めても飽きずに新鮮な何かを引き出してくれるありがたい情報源である。何処か思い出の地を紙地図で眺めてみては如何であろうか。温故知新なのかも知れない。(2020.01.20)



写真1 下馬四つ角

図1 由比ヶ浜通り

写真2 長谷観音四つ角